

令和7年度が始まりました。コミュニティ・スクール3年目となる今年度も、地域と共にある、開かれた学校を目指していきたいと考えております。

つつじが丘小学校創立以来、本校の教育の最上位概念ともいえるのが教育ビジョン「自立」と「共生」です。このビジョンに近付けるために、学校教育目標「だれもが笑顔になる学校」があり、目指す児童像「自ら学び表現する子」「認め合い協力して行動する子」「すすんで体を整える子」があります。

学級や職場等では、周りの人とのかかわりなくして様々な課題を解決することはできません。子供たち、教職員一人一人が、「かかわり合い、認め合い」の精神で日々を過ごすことができれば、自然と高まり合う集団や組織に育っていきます。チャレンジには失敗がつきものです。しかし、失敗を悔やんでいても前に進むことはできません。失敗から学び、次のチャレンジへとつなげることが、未来への成長につながります。この時、大切なのが、自分の居場所が、安心できる居場所であるかどうかということです。失敗したら笑われたり、責められたりするような場所では、チャレンジする気にすらなりません。だからこそ、恐れずチャレンジできる、チャレンジしてよかったと思える、そんな学校でありたいと思っています。そのためには、自分たちにとって精神的に安心感を得られる心理的安全性の高い学校であることが大前提です。このような環境では、違う意見を言っても、人間関係が破綻したり、相手から拒絶されたりはしません。結果、一人一人が居心地の良い空間と感じ、安心して様々な活動に主体的に取り組むことができるようになるのです。心理的安全性の高い空間、集団であるためには、相手や周りの人に対する心のもちようが重要です。

まずは、「**お互い様、お陰様**」の精神です。これらの言葉には「互いに尊重し合う」という意味が含まれており、良好なコミュニケーションにつながる言葉です。「お陰様」は感謝の言葉、「お互い様」は謙虚さや優しさを伝える時に使う言葉として使われてきました。みんながみんな、このような心もちで接することができるとうれしいなと思っています。

そして「**喜びは二倍に、悲しみは半分に**」というドイツのことわざです。このことわざのような関係が存在する集団では、誰一人として見放さません。一つの喜びを二人で喜べば、幸福感が共鳴して大きくなります。逆に、悲しい時にそばにいて寄り添ってくれる人がいれば、辛さも少し和らぎます。人間関係が深まってくればくるほど、このような関係が大切であることを自覚します。これからも、「**学びの共同体**」を目指し続ける姿勢を継続し、子供も大人もみんなで学び続ける学校にしていきたいと考えております。今年度もよろしくお願いいたします。

昭島市立つつじが丘小学校 校長 大友基裕